

## 総合的な学習の時間 福祉体験学習「手話講座」

湯河原町立湯河原小学校



### 単元（題材）目標

- 高齢者や障がい者など様々な立場の方のことを「知ること」「関心をもつこと」「身近なものであると感じること」など体験を通して実感する。
- だれもが関わり合えるための工夫について調べ、発表する活動を通して、自分にもできることを考え実践していく。

(1) 実施時期 1月

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年 61名



(3) 指導者（教諭・外部講師等）

手話サークル「心」 6名 社会福祉協議会職員 1名



(4) 実施内容

◎ 聴覚障がい者の方の話

幼い頃に聴覚を失った方が、幼い頃の友達関係や、どうやって学んできたかなどを手話で語ってくださった（同時通訳者あり）。

◎ 手話体験

- ・ あいさつ（おはようございます、こんにちは、さようなら）の練習。
- ・ 動物や果物などをどのように手話で表現するかをクイズ形式で行う。
- ・ 自分の名前を手話で覚える（5人ずつのグループに1人サークルの方が入っていただき、教えていただいた）。

(5) 成果

○ 手話自体は、今までの学習の中で簡単なあいさつや歌などで体験したことはあったが、聴覚障がい者の方の話聞くのは初めてであり、どのように手話が使われているか、その思いなどについても理解することができた。

○ この福祉体験学習に併せて、国語「だれもが関わり合えるために」や総合的な学習の時間「福祉について考えよう」で、点字やユニバーサルデザインなどの学習を進めていた。学習に「体験」が加わったことで、より深い学習ができた。学習後、多くの児童が図書室から借りた手話に関する本を読んで手話について学んだり、手話を覚えようとしていたりしていた。

〈児童の感想〉

- ・ 手話ができたら、いろいろな人と関わるはばが広がる。
- ・ 手話は難しいものではないことが分かった。